

ドクモスカウト2011募集要項

- 内容：2011年度の「つり情報」読者モデルをオーディション形式により決定し、釣りファンの拡大と女性アングラ育成のお手伝いをさせていただきます。
- 応募条件：自薦他薦を問わず、18歳以上35歳未満の釣り好き女性に限りです。
- 選考方法：毎月1名、書類審査通過者に取材釣行していただき、つり情報発行人、ドクモスカウト事務局、カメラマン、船長の4人により基礎点を採点。12名の女性アングラがそろったところで、最終審査として全員で仕立船釣行し、グランプリを選出します。
- 応募方法：WEBからの応募は、つり情報 WEBサイトにある「ドクモスカウト2011」のページから。



ケータイからの応募はコチラ→

さらに詳しく…



▲大原沖のポイントは水深30メートル前後だが、タナは15~20メートルの間



▲常連氏は3点掛けも含めて順調に数をのばしていた



▲上層でヒットしたウマヅラハギに「かわいい〜」
▶取り込みがこれからの課題。よく仕掛けを絡ませていた
▶中井船長がその都度アドバイスしてくれる。初心者には実にありがたい



ない。船長からコマセの振り方が今一つのアドバイスがある。どうやらうまくコマセが出ていないようだ。

里美の感想

♥イサキ釣りは初めてだったのでとてもワクワクしていました。一度に2尾、3尾と掛かった時の引きの楽しさは最高！実際に釣りあげた魚達を見て感動！この楽しさをもっとたくさんの女性にも味わって欲しいです！

各地でイサキが絶好調。これなら初めての女性でもなんとかなるだろうと選んだのが外房大原沖。当地は南房や伊豆方面に比べてシーズン入りが遅い分、7月いっぱいには十分楽しめる釣り場だ。

今回登場する大塚里美さんは釣り歴わずか1年、もちろんイサキ釣りはおろか、大原へ行くのも初めてという若葉マークの女性だ。

6月14日、乗船したのは力漁丸。大型船にゆったりと釣り座を取り、午前4時過ぎに港を離れ、40分ほど走って大原沖の25メートルダチの釣り場に到着した。5時になったところで中井船長から、

「18~15メートルでやってくださる。竿の弾力を生かしてコマセを振る方法を習得すると、ようやくイサキ釣りがいいスタイルになってきた。とともに彼女に初めてのアタリ。

少し迷ったのがよかったのか、重そうに巻き上げて取り込んだのは、いきなり25センチ級のダブル。初めて釣った魚に彼女は感激した。

その後は単発ながら少しずつ数をのばしていき、徐々に釣りスタイルも様になっていく。

「いつもよりちょっと食いは悪いなあ」といながら、中井船長はこまめに移動を繰り返す。11時に納竿。20~35センチのイサキを20~46尾、ゲストにアジ多数。イサキはあと少しで定数だったが、この釣果で不満のあるうちはない。残念ながら彼女はスソだったが、まるで竿頭のような喜びよう。

「最終審査が楽しみです」ともう勝った気分である彼女に、苦笑しながら顔を見合わせるスタッフだった。

力漁丸船長の目 Captain (テクニック中心に20点満点で採点)

中井 聡船長 16点 ●イサキは初めてでも釣り経験があるのは分かりました。もう少し釣ってほしいかなあ。



採点者の目 Marker

カメラ担当 時田 真吉 18点 (ビジュアル中心に20点満点で採点)



総合得点 Score 81点
※この点が一次審査の持ち点になります 100点満点

A: 情熱度…釣り全般に対する情熱 B: 上達度…実際に体験した釣りものの、取材当日の上達度
C: 知識度…釣りに関する経験、知識 D: センス…釣りのセンス E: お騒がせ度…船の中でムードメーカーであったか、元気だったか F: 釣果…船中の釣果に対して平均がどうか

A~Fの項目30点満点で採点

徳永 隆也 24点
評価 ●後ろに束ねられたヘアスタイルが爽やかで好印象。ピンのウエアとおサルのキャップが映えました。

根岸 伸之 23点
評価 ●投入からタナ取りまでは様になったけど、最後まで取り込みが今一つ、よく仕掛けを絡ませていた。竿を置いたり、休んだりもなく釣り続けたのは立派でした。

本日に釣ったものは思いもよらずに大きかった



女性読者モデルオーディション

ドクモスカウト DOKUMO 2011



初めてのイサキに感動しきりの彼女だった

参加者 大募集

第1次審査 vol.10 外房大原沖のイサキ 外房大原港 力漁丸 写真/文◎本誌編集部



10th チャレンジヤー 大塚 里美さん おおつか さとみ プロフィール 1977年生まれ33歳 職業 会社員 趣味 釣り、旅行、フラワーアレンジメント



▲60号のサニービシにカラーバリ仕掛け。付けエサなしで釣るのが大原スタイル

「18~15メートルでやってくださる。竿の弾力を生かしてコマセを振る方法を習得すると、ようやくイサキ釣りがいいスタイルになってきた。とともに彼女に初めてのアタリ。

少し迷ったのがよかったのか、重そうに巻き上げて取り込んだのは、いきなり25センチ級のダブル。初めて釣った魚に彼女は感激した。

その後は単発ながら少しずつ数をのばしていき、徐々に釣りスタイルも様になっていく。

「いつもよりちょっと食いは悪いなあ」といながら、中井船長はこまめに移動を繰り返す。11時に納竿。20~35センチのイサキを20~46尾、ゲストにアジ多数。イサキはあと少しで定数だったが、この釣果で不満のあるうちはない。残念ながら彼女はスソだったが、まるで竿頭のような喜びよう。

「最終審査が楽しみです」ともう勝った気分である彼女に、苦笑しながら顔を見合わせるスタッフだった。



●昨年6月、父に誘われボート釣りを経験してから釣りにハマりだと思っています。まだまだ駆け出しの初心者ですが、たくさんのお魚と会いたくて応募しました。



▲シャクリ方は後半になって様になってきた

さい」と合図が出る。といっても彼女には？ スタッフにコマセの詰め方、投入、タナ取りなどを教わることから始まり、皆に遅れること15分ほどで初投入となった。

船中ではアジに交じって25センチ級のイサキが顔を出す。船長は気に入らないのか、しばらくして移動の合図。彼女はアジさえ釣れず不満顔だ。

次のポイントから25~30センチ級のイサキが好釣りに釣れ始めるが、彼女には何も掛かってこ